



部門別事業報告

VII 環境調査

VIII 母子保健

IX 健康支援

X 結核予防

XI 諸行事

環境調査

作業環境測定は有害物質の濃度や有害エネルギーなどの物理量を測定し作業環境の評価を行うもので、環境改善のための工学的対策を講ずる重要な情報となる。種々の有害要因を減少させ、作業環境を適正に保ち、働く人々の健康障害を防止するための作業環境管理の基本となるものである。また、公共の建築物や学校などにおける揮発性有機化合物等の測定や、ダニ又はアレルゲン検査、公衆浴場などのレジオネラ属菌検査は化学物質や細菌等により健康を害することがないように管理が求められている。

■実施状況

平成20年度、作業環境測定（労働安全衛生法第65条によるもの又は準ずる測定）を実施した事業場は476事業場であった。延単位作業場は1,586箇所（前年度1,642）で、その管理区分内訳は、第1管理区分が1,145箇所（全体の72.2%）、第2管理区分が207箇所（13.0%）、第3管理区分が234箇所（14.8%）であった。第2・第3管理区分を併せた441箇所（27.8%）は、作業方法の改善や工学的対策などの作業環境改善が必要となる。測定項目別では粉じんと騒音の第2・第3管理区分の割合が高くなっており、これまでと同様の傾向が見られた。

労働安全衛生法第65条によらない測定（管理濃度等が設定されていない物質、環境改善のための測定など評価基準による評価をしない測定）があり、その他としての件数が前年度より減少した（表1）。

作業環境測定以外の環境測定では、室内空気環境中の揮発性有機化合物（VOC）や石綿粉じん測定、学校環境衛生基準によるダニまたはダニアレルゲン検査、公衆浴場等のレジオネラ菌検査、公衆浴場等のレジオネラ属菌検査を実施した（表2）。

■作業環境測定における主な採取・分析方法

対象項目	採取方法	分析方法
有機溶剤	固体捕集法	ガスクロマトグラフ法
	検知管法	
粉じん	相対濃度指示方法	
	ろ過捕集法	重量分析法
金属	ろ過捕集法	原子吸光光度法
	液体捕集法	
特定化学物質	ろ過捕集法	重量分析法、 液体クロマトグラフ法
	検知管法	
	液体捕集法	吸光光度法

■管理区分と管理区分に応じた講ずべき措置

（安衛法第65条の2第1項）

管理区分	作業場の状態	講ずべき措置
第1管理区分	当該単位作業場所のほとんど（95%以上）の場所で気中有害物質の濃度が管理濃度を超えない状態	現在の管理の継続的維持に努める
第2管理区分	当該単位作業場所の気中有害物平均が管理濃度を超えない状態	施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずるよう努める
第3管理区分	当該単位作業場所の気中有害物質平均が管理濃度を超える状態	①施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずる ②有効な呼吸用保護具の使用 ③健康診断の実施その他労働者の健康の保持を図るため必要な措置を講ずる

表1 測定件数・項目別事業場数・単位作業場所数

()内は%

区 分 (測定項目)	測定件数 * 1	測定実施事業場 延数* 2	延単位作業場 所数* 3	延単位作業場所の管理区分内訳 (割合%) * 4		
				第1管理区分	第2管理区分	第3管理区分
計	13,896	476	1,588	1,147 (72.2)	207 (13.0)	234 (14.7)
粉じん(石綿を除く)	4,095	170	474	336 (70.9)	59 (12.4)	79 (16.7)
石 綿	80	2	6	6 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
特定化学物質	1,196	115	164	137 (83.5)	5 (3.0)	22 (13.4)
金 属	360	40	55	48 (87.3)	7 (12.7)	0 (0.0)
鉛	95	11	15	14 (93.3)	1 (6.7)	0 (0.0)
有機溶剤	4,670	269	646	539 (83.4)	54 (8.4)	53 (8.2)
騒 音	3,257	45	228	67 (29.4)	81 (35.5)	80 (35.1)
その他* 5	143	28				

* 1 : 作業環境測定の結果の評価等に用いた測定点総数

* 2 : 測定項目ごとの実施事業場延数 (総数は1項目以上の実施事業場延数。ただし、その他の項目を除く)

* 3 : 作業環境測定結果の評価を実施した延単位作業場所の項目ごとの場所数 (単位作業場所: 作業環境測定結果の及ぶ範囲)

* 4 : 各項目における管理区分ごとの単位作業場所数及び割合 (割合は計算上、合計が100%にならない場合がある)

* 5 : 作業環境測定であるが、結果の評価を実施しなかった測定の総件数及び事業場延数 (分析のみの測定を含む)

表2 作業環境測定以外の環境測定実績

名 称	根拠となる法令等	物質名等	測定件数
計			154
揮発性有機化合物 (VOC) の 室内空気環境測定	官庁営繕部における平成15年度 からのホルムアルデヒド等の室 内空気中の化学物質の抑制に関 する措置について	ホルムアルデヒド, アセトアルデヒド, トルエン, キシレン, エチルベンゼン, スチレン	35
	学校環境衛生基準	ホルムアルデヒド, トルエン, キシレン, p-ジクロロベンゼン	55
室内空気環境中の石綿測定		石綿粉じん	5
ダニまたはダニアレルゲン検査	学校環境衛生基準	ダニアレルゲン	50
レジオネラ属菌検査	公衆浴場法および同法施行条例, 旅館業法および同法施行条例に 基づく検査	浴槽水中のレジオネラ属菌	9

母子保健

赤ちゃんの病気の中には、新生児期のうちに発見し治療を行うことで心身障害の発症を防止し、命の危険を回避することができるものがある。当協会では、岩手県の委託を受け6つの病気を対象とした先天性代謝異常検査の実施と、岩手県医師会の委託を受けて胆道閉鎖症マススクリーニング検査結果の集計を行っている。いずれも早期発見・早期治療を目的としたものである。

1. 先天性代謝異常検査

■実施状況

平成20年度の初回検査人数は11,357人、要再採血と判定されたのはアミノ酸代謝異常4人、ガラクトース血症179人、先天性副腎過形成症101人、先天性甲状腺機能低下症102人であった(表1)。

スクリーニング時に要精密検査と判定された者、及び再採血後要精密検査と判定された者を合わせると、精密検査対象者はアミノ酸代謝異常1人、ガラクトース血症24人、先天性副腎過形成症26人、先天性甲状腺機能低下症34人であった(表1,2)。

■検査方法

生後4～6日の間に足の裏(踵)から極少量の血液を採取し、アミノ酸代謝異常であるフェニルケトン尿症・楓糖尿症・ホモシスチン尿症とガラクトース血症、先天性副腎過形成症、先天性甲状腺機能低下症の6つの病気について次の方法によって検査を実施した。

アミノ酸代謝異常：高速液体クロマトグラフィー

ガラクトース血症：ガラクトース脱水素酵素・マイクロプレート法

先天性副腎過形成症：酵素免疫測定法

先天性甲状腺機能低下症：酵素免疫測定法

表1 初回および再採血における項目別検査成績

()内は%

内 訳	初回採血検体検査人数 11,357人			
	アミノ酸代謝異常	ガラクトース血症	先天性副腎過形成症	先天性甲状腺機能低下症
正 常	11,353 (99.96)	11,175 (98.40)	11,254 (99.09)	11,251 (98.07)
要再採血	4 (0.04)	179 (1.58)	101 (0.89)	102 (0.90)
要精密検査	0	3 (0.23)	2 (0.02)	4 (0.04)
再採血検体検査人数	4 (100.00)	178 (99.44)	99 (98.02)	101 (99.02)
正 常	3 (75.00)	158 (88.76)	77 (77.78)	90 (89.11)
要精密検査	1 (25.00)	20 (11.24)	22 (22.22)	11 (10.89)



表2 再採血および再々採血における項目別検査成績

()内は%

内 訳	再採血検体検査人数 375人			
	アミノ酸代謝異常	ガラクトース血症	先天性副腎過形成症	先天性甲状腺機能低下症
正 常	374 (99.73)	354 (94.40)	351 (93.60)	334 (98.07)
要再々採血	0	0	0	17 (4.53)
要精密検査	1 (0.27)	21 (5.60)	24 (6.40)	24 (6.40)
再々採血検体検査人数	0	0	0	13 (76.47)
正 常	0	0	0	7 (53.85)
要精密検査	0	0	0	6 (46.15)

2. 胆道閉鎖症マススクリーニング検査

■実施状況

平成20年4月～21年3月までの出生児数は10,121人であった。スクリーニングを受診した乳児は9,188人、受診率90.8%であった。一次スクリーニングの結果、20人が二次の対象となった。そのうち、3次スクリーニングの対象となった出生児数は昨年同様0であった。

胆道閉鎖症の発生率は出生7,900人に対して1人と言われている。早期に診断し、生後60日以内に手術を受ければ良好な予後が期待される。

■検査方法

保護者の方が便の色を調べ、見本の色調と比較して用紙に記入、1ヶ月健診の際に担当医師へ提出する。健診医により記載された色調を確認し、スクリーニングを実施する。

表 検査成績

〈 〉内は人数、()内は%

出生児数	10,121
検査人数	9,188 (90.8)
1次スクリーニング陽性者	20
2次スクリーニング結果	・異常なし〈14〉 ・新生児肝炎症候群〈2〉 ・記入間違い〈1〉 ・肝内胆管形成不全〈1〉 ・肝内胆汁うっ滞症〈1〉 ・確認中〈1〉
3次スクリーニング対象者	0

健康支援

1. 健診の事後措置

■ 集団健診の対応

各団体が主催する事後指導会で、健診の結果説明の依頼を受け対応した。
平成20年度の依頼数は、32団体、147回であった。

表1 団体内訳

団体	団体数	回数
計	32	147
市町村	4	27
事業所	25	117
学校	3	3

表2 職種・部門別内訳

職種	地域部門	産業部門	学校部門
計	27	117	3
保健師	16	24	2
管理栄養士	11	80	1
健康運動指導士	0	13	0

■ 一日人間ドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成20年度実施数は、保健指導 10,316名、栄養指導 6,898名であった。ミニ栄養講話も実施した。

■ レディースドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成20年度実施数は 103名であった。

■ 専門ドックの対応

受診後日、結果説明来協にあわせて希望者へ、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成20年度実施数は、保健指導 197名、栄養指導 67名であった。

■ 労災保険二次健康診断の対応

二次健康診断対象者へ保健指導を実施した。
平成20年度実施数は 534名であった。

2. 定期健康相談事業

事業所が職員の健康管理や健康教育のため、外部の専門機関に保健師派遣を委託する。当協会はその受け皿として事業所と委託契約を締結し、保健師を定期的に派遣している。
平成20年度、4団体へ計54回派遣した。

【事業内容】

- ・ 事業所職員の健康管理、健康教育
- ・ 日常の健康相談、保健指導
- ・ 健康診断の事後措置
- ・ 必要に応じ職場の巡回、環境管理のためのアドバイス、衛生委員会への参加など、産業医、事業主、衛生管理者等と密接な連携のもとに行う。

3. 相談員派遣

岩手産業保健推進センターにおける産業保健相談業務（産業衛生工学）の相談員として、平成20年度は38回派遣した。

4. 電話相談

当協会で開催している健康診断結果・検査等に関する相談や地域医療機関への情報提供等 695件の電話相談に対応した。

表 団体内訳

団 体	件 数	主 な 内 容
計	695	
市町村	384	結果の意味・受診医療機関の選択
事業所	300	結果の意味・受診医療機関の選択
学 校	11	結果の意味

5. 講演会講師派遣

平成20年度の派遣協力は、40団体142回であった。テーマは、今年度より特定健康診査・特定保健指導が開始されたこともあり、「メタボリックシンドロームの予防」が中心であった。

表1 団体内訳

団 体	団体数	回 数	主 な テ ー マ
計	40	142	
市町村	10	32	ウォーキング・メタボリックシンドロームの予防
事業所	26	103	作業環境管理・運動の必要性・メタボリックシンドロームの予防
学 校	4	7	食育・メタボリックシンドロームの予防

表2 職種別内訳

職 種	地域部門	産業部門	学校部門	人
計	32	103	7	
保 健 師	3	26	2	
管 理 栄 養 士	0	13	3	
健 康 運 動 指 導 士	29	31	0	
労働衛生コンサルタント	0	28	0	
そ の 他	0	5	2	

6. 特定保健指導

平成20年度より開始された特定保健指導の初回面接実施団体は、地域部門4、産業部門13団体であった。実施人数は、地域部門 185人、産業部門 3,197人、合わせて 3,382人であった。

表 部門別内訳

区 分	地域部門	産業部門	人
計	185	3,197	
動機付け支援	149	1,208	
積極的支援	36	1,989	

7. 諸催事の協力

平成20年度催事への協力は、5団体103回であった。内容はヘルスアップ事業が中心であった。

表 団体内訳

団体	団体数	回数	主な内容
計	14	53	
市町村	1	3	ヘルスアップ事業
事業所	13	50	体力測定・ヘルスアップ事業

8. 乳房自己検診法指導

この指導は、乳房の模型を用いて「シコリ」に触れ、自分で見つけることができることを実際に体験させるものである。月1回の自己検診が、乳がんの早期発見に結びつくことを受診者に理解いただくため、乳がん検診の待ち時間等を利用して行っている。平成20年度は、3団体へ25回指導した。その他に、一日人間ドック受診時に昼の空き時間を利用して、乳房自己検診法を指導している。

9. 研修会等開催

健康教育研究会、VDT作業管理者講習会、基本健康診査従事者講習会および健康教育セミナーを開催した。詳細は次項『諸行事』『研修会等の開催』参照。

10. 健康げんき倶楽部

会員制のヘルスサポートシステムで、健康度評価・血液検査後、保健師・管理栄養士・運動指導士による健康づくりを全面的にサポートしている。会員は、トレーニング施設「気良楽（きらら）」の利用が可能である。平成21年3月現在の会員数は189名である。

11. 教材貸出

学校向け、一般向け、事業所向けと各種様々な内容のビデオ・CDやパネルの貸出を行っている。平成20年度、ビデオ・CD、パネル類あわせて26件貸出した。

表 団体内訳

団体	計	ビデオ・CD	パネル
計	26	16	10
市町村	2	2	0
事業所	5	4	1
学校	19	10	9

●主な貸出教材

【ビデオ・CD】

- 「健康なからだをつくる食事」
- 「わたしたちの生活習慣病シリーズ」
- 「健康な体をつくる子どもの食」

【ヘルスパネル】

- 「運動」
- 「栄養」

●教材頒布

結核図書 17冊

結核予防

1. 検診事業

部門別事業報告（学校保健・地域保健・産業保健）に記載

2. 複十字シール運動の展開

複十字シール運動は結核対策事業資金造成のための募金活動である。当協会ではNPO法人岩手県地域婦人団体協議会と共同で運動を展開している。

運動期間：平成20年8月1日～12月31日

後援：岩手県、岩手県議会、岩手県市長会、岩手県市議会議長会、岩手県町村会、岩手県町村議会議長会、岩手県保健所長会、岩手県教育委員会、岩手県PTA連合会、岩手県医師会、岩手県歯科医師会、岩手県薬剤師会、岩手県看護協会、岩手県放射線技師会、岩手県臨床衛生検査技師会、JA岩手県五連（JA岩手県中央会、JA岩手県信連、JA岩手県厚生連、JA全農いわて、JA共済連岩手）、岩手県国民健康保険団体連合会、岩手労働基準協会、岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、NHK盛岡放送局

実績：大型シール 471枚（ 531枚）※（ ）内平成19年度
募金総額 3,432,416円（3,467,878円）
内岩手県地域婦人団体協議会の実績
2,609,000円（2,567,000円）

3. 普及啓発、広報活動

■新聞掲載による普及啓発

掲載日：平成20年9月23日（日）

媒体：岩手日報朝刊 社会面

内容：結核予防週間告知、前年度シール募金報告

■結核予防週間（9月24日～30日）における街頭キャンペーン

名称：「盛岡市保健所フェスタ2008」における「結核撲滅PRコーナー」

日時：平成20年9月27日（土）

場所：盛岡市保健所

主催：盛岡市

協力：NPO法人岩手県地域婦人団体協議会、
盛岡市地域女性団体協議会

内容：複十字シール募金、普及啓発グッズ配布、パネル・ポスター展示

■ポスター・チラシ等の配布

配布場所：市町村、教育委員会、保健所、県立病院、公共施設など

■広報誌の配布

『健康いわて』第240号～第245号	(財団法人岩手県予防医学協会発行)	隔月	3,300部
『複十字』No321～326	(財団法人結核予防会発行)	隔月	400部
『健康の輪』	(全国結核予防婦人団体連絡協議会発行)	年3回	110部

4. 各種会議、研修事業

会 議 、 研 修 会 名	開 催 日	開催地	参加人数
結核予防会保健指導システム説明会	平成20年5月2日	東京都	3名
結核予防会臨時全国事務局長会議	6月30日	東京都	1名
結核予防会放射線学科研修夏期コース	8月20日～22日	東京都	1名
結核予防会合同班会議	8月22日～23日	東京都	1名
第19回結核予防会マンモグラフィ講習会	10月3日～5日	東京都	1名
JATA健康ネットワーク事業推進委員会システム・健診部会	10月24日	東京都	1名
結核予防会東北・北海道ブロック会議	11月11日	福島市	2名
結核予防会胸部検診対策委員会フィルム評価会	12月11日～12日	東京都	2名
第30回結核予防会事務職員セミナー	12月15日～17日	東京都	1名
結核予防会全国支部事務局長研修会並びに全国支部事務連絡会議	平成21年2月27日	東京都	1名
結核予防会、日本対がん協会共催診療放射線技師研修会	3月11日～13日	東京都	2名
第60回結核予防全国大会	3月17日～18日	東京都	3名

諸行事

1. 理事会、評議員会、監事会等の開催

[開催日]

(1) 理事会

■第1回理事会

[平成20年4月18日]

理事・監事の選任についての報告および、会長・専務理事・常務理事の選任、評議員の推薦について審議、議決された。

■第2回理事会

[平成20年6月13日]

理事・評議員の選任についての報告および、平成19年度事業報告、平成19年度決算報告、弔慰金の支給について審議、議決された。

■第3回理事会

[平成21年3月18日]

理事の選任、平成20年度上半期定期監査についての報告および、平成21年度事業計画（案）、平成21年度収支予算（案）、評議員の推薦について審議、議決された。

(2) 評議員会

■第1回評議員会

[平成20年6月5日]

会長、専務理事、常務理事選任についての報告および、平成19年度事業報告、平成19年度決算報告、理事の選任について審議、議決された。

■第2回評議員会

[平成21年3月12日]

平成21年度事業計画（案）、平成21年度収支予算（案）、理事の選任について審議、議決された。

(3) 監事会

■第1回監事会

[平成20年5月23日]

平成19年度事業報告書、決算報告書や法人の財産状況、理事の業務執行状況について監査を受け、適正かつ不備がないことを認められた。

■第2回監事会

[平成20年11月21日]

平成20年度上半期予算執行状況、事業進捗状況について定期監査を受け、適正かつ順調であることを認められた。また、法人財産の状況、理事の業務執行状況についても不備がないことを認められた。

2. 学術専門委員会、小委員会の開催

[開催日]

(1) 学術専門委員会

■学校保健専門委員会

[平成20年6月11日]

■ウイルス肝炎対策専門委員会

[平成20年11月29日]

■循環器系検診専門委員会

[平成20年12月11日]

■消化器系検診専門委員会

[平成21年3月3日]

■乳がん検診専門委員会

[〳 3月9日]

■呼吸器系検診専門委員会

[〳 3月24日]

(2) 小委員会

■CR、CT検診小委員会

[平成20年4月16日]

■脳ドック小委員会

[〳 7月24日]

■心臓検診小委員会

[平成21年3月6日]

3. 関係者、関係機関との打ち合わせ、懇談会等

[開催日]

■CR検診実施市町村意見交換会	[平成21年2月23日]
■胃部読影検討委員会	[〳 3月11日]
■県南センター胃部読影検討会	[〳 3月25日]
■県南センター医師懇談会	[〳 3月26日]

4. 第53回平成20年度予防医学事業推進全国大会の開催

[開催日、開催地、参加人数]

[平成20年10月16日～17日、盛岡市、1,400名]

学術講演：「脳卒中の予防と治療」 ～癌、心臓病だけでなく 脳卒中こそ諸悪の根源～

岩手医科大学 学長 小川 彰

アトラクション：「遠野の語り部による昔話」

正部家 ミヤ

文化講演：「みちのくの“浄土”」 ～奥州藤原三代の信の風光～

中尊寺仏教文化研究所 所長 佐々木 邦世

関連会議：企画委員会、全国運営会議、懇親会

5. 関係機関担当者会議の開催

[開催日、開催地、参加人数]

■平成20年度学校保健連絡会議 [平成20年12月4日、盛岡市、152人]

報告事項：平成19年度学校保健分野健診・検査実施状況報告

協議事項：平成21年度学校保健事業計画骨子（案）

平成21年度料金改定について（案）

生活習慣病予防健診の検査項目の変更と一次・二次同時実施について

講演：「発達障がい早期発見と対策」

岩手県立中央病院診療部 小児・周産期センター長（兼）救急医療部

次長 前多 治雄

■平成20年度市町村健康推進担当部課長会議及び平成20年度市町村・JA健康推進担当部課長会議

[平成20年11月6日、盛岡市、111人]

行政報告：「健康いわて21プランの改定と本県における生活習慣病対策の推進について」

岩手県保健福祉部 保健衛生課 主査 互野 裕子

「特定健診・特定保健指導について」

岩手県保健福祉部 長寿社会課 主査 千田 邦博

「肝炎対策について」

岩手県保健福祉部 長寿社会課 主査 大坪 徹磁

事業説明：平成19年度健診・検査実施状況

平成20年度健診・検査実施及び予約状況

平成20年度生活機能評価の実施状況（4月～9月）

平成21年度地域保健事業計画骨子（案）

忍び寄るCOPD（慢性閉塞性肺疾患）

乳がん検診の現状と今後

平成21年度一日人間ドックの取り組み

報告事項：平成19年度活動報告について

協議事項：平成21年度事業計画について

講演：「乳がんの早期発見について ～検診が果たす役割～」

いしだ外科胃腸科クリニック 院長 石田 茂登男

「ウイルス肝炎対策について ～岩手県の現状～」

岩手医科大学医学部内科学講座消化器・肝臓内科分野 講師 阿部 弘一

■平成20年度保健活動検討会

[平成21年2月23日、盛岡市、135人]

報告事項：平成19年度健診結果・追跡調査結果

平成19年度健診・検査実施状況

平成21年度地域事業計画骨子

行政報告：「健康増進事業について」 岩手県保健福祉部 長寿社会課 主査 千田 邦博

「岩手県肝炎対策計画（案）について」

岩手県保健福祉部 保健衛生課 主任主査 小野 泰司

事業説明：事前アンケートに対する回答

特定保健指導について

講演：「特定保健指導の効果的な進め方について」

国立保健医療科学院 免疫部 部長 今井 博久

6. 研修会・講演会等の開催

[開催日、開催地、参加人数]

■第24回健康教育研究会

[平成20年8月12日、盛岡市、85人]

テーマ：「よりよい第一印象をあたえるためのコミュニケーション手法」

ウイズ・リミテッド 吉村 まどか

■VDT作業管理者研修会

[平成20年6月18日、盛岡市、20人]

テーマ：「管理者の役割と心構え」「労働衛生管理の概論」

財団法人岩手県予防医学協会 阿部 妙子

「VDT作業の健康への影響と健康管理」

岩手大学 保健管理センター 教授 立身 政信

「作業環境管理・作業管理」「VDT機器及び作業環境の維持管理」

財団法人岩手県予防医学協会 港 真里

「VDT作業従事者に対する労働衛生教育の方法」

財団法人岩手県予防医学協会 高橋 るり子

■特定健康診査等従事者指導講習会

[平成21年2月9日、盛岡市、83人]

実習：「COPDのスクリーニングについて」

財団法人岩手県予防医学協会 米澤 慎悦

「肺機能検査実施のポイント」

財団法人岩手県予防医学協会 腰山 誠

「肺機能検査の実習」

財団法人岩手県予防医学協会

高橋 恵美、柳田 貴子、穴沢 真由美

「肺機能検査の精度管理」

財団法人岩手県予防医学協会 山崎 浩子

講義：「21世紀の国民病COPD（肺そしょう症）」

岩手県立中央病院 副院長

武内 健一

■健康教育セミナー [平成21年1月15日、盛岡市、29人]
テーマ：「共有コーチング（コミュニケーション技法）」
国際コーチ連盟 プロフェッショナル認定コーチ 石川 尚子

■学術講演会
テーマ：「乳がんに負けないために」 [平成20年6月14日、花巻市、93人]
講演：「乳がん検診と薬物療法について」
岩手県立胆沢病院 乳腺外科長 竹花 教
テーマ：「岩手県肝疾患診療ネットワーク研修会」 [平成20年11月29日、盛岡市、82人]
講演：「ウイルス性肝炎の現状と対策について」
岩手医科大学内科学講座消化器・肝臓内科分野 講師 阿部 弘一
「岩手県肝疾患相談センター開設について」
岩手医科大学付属病院 医療福祉相談室 ソーシャルワーカー 青木 慎也
基調講演：「肝炎、肝がん対策 ―これまでの総括と今後の展開―」
広島大学名誉教授
医療法人広島健康会アルパーク検診クリニック 名誉院長 吉澤 浩司

■第22回東北6県検診機関による懇談会 [平成20年9月4日、盛岡市、40人]

■平成20年度予防医学事業中央会東北ブロック3支部会議 [平成20年9月19日、盛岡市、10人]

■第13回医用超音波基礎講習会 [平成21年1月10日、盛岡市、53人]

7. 普及啓発および広報活動（再掲）

(1) 普及啓発活動

■結核予防週間における街頭キャンペーン、新聞広告掲載、市町村健康まつりへの協力

■ポスター・チラシ等の配布

(2) 広報活動

■広報誌の配布

『健康いわて』第240号～第245号（財団法人岩手県予防医学協会発行） 隔月 3,300部

『複十字』No.321～326（財団法人結核予防会発行） 隔月 400部

『健康の輪』（全国結核予防婦人団体連絡協議会発行） 年3回 110部

8. 中国地域保健農村生活改善研修訪日団の受け入れ

[受入期間]

訪問先と主な研修内容

[平成20年7月6日～12日]

■岩手県庁

表敬訪問、岩手県の保健行政について研修

岩手県農林水産部で農業技術、農村生活改善等の概要研修

■西和賀町

町の母子保健活動について研修

長瀬野地区新生活運動について研修

農協取り組み、農業施設視察等の研修

沢内病院見学

■遠野市

- ・夢を咲かせる女性の会における研修

■遠野市立達曽部小学校

- ・学校における保健衛生カリキュラムについて研修
- ・授業参観、児童との給食、懇談

■岩手中央農協

■葛巻町

葛巻町農林環境エネルギー課での研修

バイオマスガス発電システム見学、ワイン工場見学

■岩手県予防医学協会

9. 職員研修

[実施回数、参加人数]

■内部研修会の実施

交通安全講習会（新人職員、新採用臨時職員）

[1回、 57名]

安全運転講習会（本所にて）

[2回、205名]

（県南センターにて）

[2回、 97名]

人事考課制度に係る評価者訓練

[4回、282名]

個人情報保護対応に関する研修会（本所にて）

[4回、288名]

（県南センターにて）

[2回、 93名]

第30回研究発表会

[1回、 —]

■外部研修会への参加

〈主催別内訳〉

財団法人予防医学事業中央会関係研修会

[5回、 13名]

財団法人結核予防会関係研修会

[6回、 10名]

社団法人全国労働衛生団体連合会関係研修会

[11回、 29名]

社団法人日本作業環境測定協会関係研修会

[10回、 12名]

その他

[124回、203名]

〈職種別内訳〉

医師関係

[10回、 10名]

保健師関係

[9回、 14名]

臨床検査技師関係

[38回、 55名]

放射線技師関係

[15回、 26名]

作業環境測定士関係

[12回、 15名]

看護師関係

[4回、 8名]

栄養士関係

[3回、 3名]

事務関係

[54回、 87名]

10. 研究発表等

[開催日、開催地]

■作業環境測定事例研究発表会

[平成20年6月27日、宮城県]

『粉じんの相対濃度測定における測定時間』

小笠原 雄太

- 第14回岩手県医学検査学会 [平成20年9月14日、盛岡市]
『乳癌自己検診実施率向上をめざして』 相馬 明美
『健康診断（成人）で確認されたBrugada型心電図の検討』 足立 育子
- 第49回東北医学検査学会 [平成20年10月18日～19日、新潟県]
『子宮頸部LBCの検討 ～Thinlear標本と直接塗抹標本の比較』 金田一 徹
- 第93回岩手腹部超音波研究会 [平成20年10月31日、盛岡市]
『人間ドック逐年受診者における胆のうがんの一例』 佐藤 務
『充実性腫瘍様病変を認めた胆のう例』 金子 義則
- 第18回日本乳癌検診学会総会 [平成20年12月5日～6日、愛知県]
『乳房超音波検診技師育成の取り組み』 相馬 明美
- 第19回日本疫学会総会 [平成21年1月23日～24日、鳥取県]
『HDLコレステロール値で層別化した飲酒、喫煙習慣の予後に与える影響について』 斗成 陽子
- 第43回予防医学技術研究会議 [平成21年2月25日～26日、鳥取県]
『岩手県の推計CKD割合とメタボリックシンドロームとの関連性について』 折坂 美知子
『理想的な学校心臓検診システム構築を目指して』 米澤 慎悦
『乳癌自己検診の実施向上を目指して ～がん模擬小ボールを用いたアンケート調査から～』 三浦 由美
『眼底検査の重要性についての検討』 高橋 直光
- 第20回岩手県公衆衛生学術集会 [平成21年2月28日、盛岡市]
『乳癌自己検診の実施向上を目指して ～がん模擬小ボールを用いたアンケート調査から～』 相馬 明美
『HDLコレステロール値で層別化した飲酒、喫煙習慣の予後に与える影響について』 斗成 陽子
『血清 γ -GTP値の予後への影響について』 久保 祐子
『有酸素運動実施時間と肥満の改善効果について』 高橋 力
『基本健康診査における総合判定評価による対象者属性比較と予後の検討』 阿部 妙子
『事業所で実施した特定保健指導の報告』 港 真里
『無症候性脳梗塞と生活習慣病関連因子との関係について』 女鹿 隆徳
- 第5回東北超音波健診懇話会 [平成21年3月14日、宮城県]
『腎のう胞の経過観察中に判明した腎細胞癌の一例』 山田 毅彦
『健診で経験したびまん性肝疾患の一症例』 相馬 明美
- 論文 [検査と技術—2009年37巻第1号—掲載]
『随時血糖値による糖尿病発症リスクのスクリーニングのカットオフ値』 折坂 美知子

11. 事業年報の発行

■平成19年度事業年報 Vol.37 の発行 2,050部

12. 各種表彰の受賞

■財団法人予防医学事業中央会関係

平成20年10月17日、予防医学事業推進全国大会の席上で高橋牧之介会長が感謝状を、川村和子が中央会賞を、武蔵覚および鈴木和彦が奨励賞をそれぞれ受賞

平成21年2月27日、第43回予防医学技術研究会議の席上で高島研二ほか5名が学術賞(児玉賞)を受賞

■社団法人全国労働衛生団体連合会関係

平成20年5月30日、平成20年度全衛連通常総会の席上で佐藤知佳子が功績賞を受賞

平成20年11月13日、全衛連運営研究協議会の席上で小瀬川美明、佐藤勉が奨励賞を受賞

13. 社会的貢献活動

■AEDの寄贈

岩手県教育委員会へ6台 (設置場所：高田松原野外活動センター 他)

野田村へ3台 (〳 : 国民宿舎えほし荘 他)

普代村へ3台 (〳 : 普代中学校 他)

田野畑村へ3台 (〳 : アズビィホール 他)